

大谷學報

第 二 卷 第 一 十 二 號

昭和十五年六月五日發行

・梵文金光明經の校訂に就きて 泉 芳 環 (一一)

・二種深信論の史的研究(中) 桑 谷 觀 宇 (二〇)

——特に後期學說の系統と其の展開——

・曇鸞大師傳之研究 多 屋 弘 (三)

・攝論宗の日本傳來に就て(承前) 富 貴 原 章 信 (三)

新刊紹介(八) 昭和十四年度大谷大學文學部卒業生氏名

及卒業論文題目(九七) 昭和十四年度大谷大學専門部卒業

生氏名(九八) 昭和十五年度大谷大學文學部開講學科目及

講義題目(九九) 研究室彙報(一〇三)

大 谷 大 學

大 谷 學 會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス。

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

三、委員ハ會長指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會長 大須賀秀道

理事 朽木 廣覺

青山 摺網

編纂委員 稻葉 秀賢

佐々木近衛

安井 廣度

可西 大秀

山口 益

鈴木 弘

阿部 現亮

德重 淺吉

萬造寺 齊

大友 芳雄

道端 良秀

一乘 章二

星昇 麥

正木 淨教

野上 俊靜

藤島 達朗

佐々木近衛

吉田嘉一郎

會計委員

後記

○第二號を贈る。本號より、前編輯員山崎法順氏の後を繼承して、編輯に従事する事となつた。随つて本號は、大略前任者の編輯計畫を踏襲したわけである。

○扱て、前號末尾に於ける「告」にて既に御承知の如く本號よりは、御覽の通り減頁されねばならなかつた。頁數減少に關しては、種々異論もある事であるが、今日の狀態にては致し方ない事と、一應御諒承を願ふ次第。

今日、あらゆる出版物が經驗する困難を、又等しく感じてゐる所であり、これが對策に惱まされてゐるのである。紙質の低下、或は會費の値上等もその方法であらうが、兎に角、斯ゝる外觀、形式もさること乍ら、それと共に内容の整備、充實に關しても、本學報の編輯組織機構を最高度に活用してもつて本學報の尊嚴を保持すべく、また存在價值を高めるべく務めて行き度い。

○最後に、本號發行に際しても未經驗の私を指導して下さいました方々に對し、厚く謝意を表さねばならない。(S)

大谷學報

四年回發行

一月四月七月十

會費
定一部
價賣
普通號
特輯號
金額
金參圓(但前金送料共)
金八拾錢(送料六錢)
隨宜申シ受ク(送料六錢)

廣告料

表紙裏	普通頁	一頁	半頁
參拾圓	貳拾圓	拾貳圓	拾七圓

昭和十五年五月三十日印刷
昭和十五年六月五日發行

(第二十一卷・第二號)

不許複製轉載

編輯者
發行所
右代表者
大谷學會
青山摺網
須磨勘兵衛
印刷所
大谷大學出版部
京都府北小路通新町西人
京都府鳥羽大谷大學内

發行所

京都市鳥羽
大谷大學内

大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番
振替大阪六七一八五番